


神奈川の研究者紹介

氏名	渡辺 佑基 (わたなべ ゆうき)	
現職	総合研究大学院大学, 先端学術院統合進化科学コース/統合進化科学研究センター, 教授	
主な経歴	東京大学農学生命科学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、国立極地研究所助教、同准教授を経て現職。	
専攻分野・研究テーマ	生態学・海洋生物学	
主要業績 (これまで発表 した著書、論文、 行政委員の 経験等)	<p>代表的な論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Watanabe YY and Payne NL (2023) Thermal sensitivity of metabolic rate mirrors biogeographic differences between teleosts and elasmobranchs. Nature Communications 14:2054. ● Watanabe YY, Baranov EA, and Miyazaki N (2020) Ultrahigh foraging rates of Baikal seals make tiny endemic amphipods profitable in Lake Baikal. Proc Natl Acad Sci USA 117:31242-31248. ● Watanabe YY, Ito K, Kokubun N, and Takahashi A (2020) Foraging behavior links sea ice to breeding success in Antarctic penguins. Science Advances 6:eaba4828. <p>代表的な著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 渡辺佑基 (2019)「進化の法則は北極のサメが知っていた」(河出書房新社) ● 渡辺佑基 (2014)「ペンギンが教えてくれた物理のはなし」(河出書房新社)(2020年に文庫化) 	
神奈川県との関わり	湘南国際村にある総合研究大学院大学のキャンパスで研究教育活動をしています。三浦半島の漁業者や遊漁船業者の方々の協力を得て、サメ類の生態調査を進めています。	
メッセージ	動物の体に記録計を取り付ける「バイオロギング」と呼ばれる手法を使い、様々な海洋動物(サメ、アザラシ等)の生態を調べています。2023年4月に葉山の総合研究大学院大学に来たのですが、近くの相模湾で様々なサメ類が捕獲できることを初めて知りました。これは私にとってはうれしい驚きで、早速、こちらで野外調査を始めました。大型サメ類に記録計を取り付け、回遊パターンを調べるとともに、温暖化の影響を明らかにしたいと思っています。	
連絡先	研究室ウェブサイト: https://rcies.soken.ac.jp/labs/ywatanabe/ E-mail: watanabe_yuuki@soken.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏名	木下 充代（きのした みちよ）	
現職	総合研究大学院大学，先端学術院統合進化科学コース/統合進化科学研究センター，准教授	
主な経歴	横浜市立大学大学院卒業・学位取得後，日本学術振興会特別研究員，キャノンフェローを経て，2006年総合研究大学院大学・助手に着任。その後、同大学助教，講師を経て2019年より准教授	
専攻分野・研究テーマ	神経行動学・生理行動学・視覚生態学	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<ul style="list-style-type: none"> ● Kinoshita M, Arikawa K. (2023) 'Color' Processing in the butterfly visual system. <i>Trends in Neuroscience</i> 46: 338-340. ● Kinoshita M. Stewart F.J. (2022) Cortical-like colour-encoding neurons in the mushroom body of a butterfly. <i>Current Biology</i> 32: 114-5 ● Céchetto C, Arikawa K, Kinoshita M. (2022) Motion-sensitive neurons activated by chromatic contrast in a butterfly visual system. <i>Philosophical Transactions of The Royal Society B</i> 377: 20210277 ● Kinoshita M. and Stewart F.J. (2020) Retinal organization and visual abilities for flower foraging in swallowtail butterflies. <i>Current Opinion in Insect Science</i> 42: 76-83. ● Kinoshita M, Stewart F.J., Ômura H. (2017) Multisensory integration in Lepidoptera: insight into flower-visitor interactions. <i>Bioessays</i>. 39: 1600086 	
神奈川県との関わり	三浦半島の根元葉山町にある総合研究大学院大学を拠点に、里山や住宅街に多数生息するアゲハチョウ類の訪花行動を対象に、彼らの見ている世界の理解とその小さな脳の仕組みを明らかにする研究を行っています。	
メッセージ	我々ヒトに自然を感じさせてくれる身近な生き物の一つに昆虫がいます。彼らはヒトとは大きく違う見た目を持つ一方、その知覚能力や行動には目を見張るものがあり、古くから多くの研究者を惹きつけてきました。私の研究対象であるナミアゲハは、ヒトより鋭い色覚を持つため、色覚研究のモデル生物のひとつです。彼らの色覚能力は、その訪花戦略を通じて、植物の多様性や生態系の維持に寄与してきたと考えることができます。このような研究は、ヒト以外の生き物についての理解を深めるだけでなく、多様な生物が共存できる社会や生態系保全などを考える上で重要な知見を与えてくれます。	
連絡先	研究室ウェブサイト： https://sites.google.com/view/soken-biology-of-butterfly-j/ E-mail: kinoshita_michiyo@soken.ac.jp	